

日本のヴォーリス建築

ウィリアム・メレル・ヴォーリスの建築遺産は、教会、病院、教育施設、個人住宅など、日本全国に広がっている。以下は、彼の代表的な建築物である。

京都・東華菜館（旧矢尾政レストラン）

四条大橋の南西、鴨川のほとりに建つ 5 階建てのスパニッシュ・バロック建築。ヴォーリスが設計した唯一のレストランで、外壁にはホタテの貝殻、魚介類、野菜、果物などを精巧なテラコッタで装飾している。

京都・駒井家住宅

動物学者として著名な駒井卓博士（1886-1972）のために 1927 年に建てられた赤瓦屋根のスペイン風 2 階建ての住宅。ヴォーリスの住宅建築の中でも特に保存状態がよく、オリジナルの家具が多く残されている。内部はシンプルで広々としており、庭に面した窓からたくさんの光が差し込む。2002 年に日本ナショナルトラストに寄贈され、毎週金・土曜日に一般公開されている。

西宮・関西学院大学上ヶ原キャンパス

1929 年に完成したスパニッシュ・ミッション様式のキャンパスで、クリーム色の建物と赤瓦の屋根が特徴的だ。日本で最も美しい大学キャンパスと称されることもある。時計台を中心に左右対称に配置され、兜山を借景にした正門が印象的である。

大阪・大丸心齋橋店

1922 年から 1933 年にかけて建設された大丸旗艦店の本館。ネオ・ルネッサンス様式の外観と、アール・デコ様式の装飾や天井画、ステンドグラスを配した内装が対照的である。2016 年から 2019 年にかけて大規模な改修が行われたが、上に増築された高層部を除き、当初の外観はほぼ保たれている。

東京・山の上ホテル（旧佐藤新興生活館）

1937 年に完成したアールデコ様式の建築物で、当初は社会開発を目的とした財団の本部として建てられた。1954 年にホテルに改築され、川端康成（1899-1972）、三島由紀夫（1925-1970）、遠藤周作（1923-1996）ら著名な作家が利用したことで知られる。